

【南毛利地区】令和6年度あつぎタウンミーティング実施結果

日 時:令和6年7月19日(金) 午後7時～午後8時
会 場:南毛利公民館 1階集会室
参加者:地区の自治会長(34名)、公民館地区館長、
市長、副市長、教育長、企画部長、企画部次長、総合計画担当課長、公民館・地区市民センター長

自治会長からの意見

市長等からの回答

意見1 高齢者支援について

【ネオステージ本厚木自治会】

■高齢社会の中、高齢者が外に出る機会をどう増やすかが課題であると感じています。運転免許証を返納した後も移動手段を確保し、好きな時に好きな場所へ移動できることが活力あるまちづくりの基礎になると思います。

路線バスは、朝夕の通勤に重点を置き、日中の病院や買い物、趣味活動等へは、巡回型ミニバスなどのコミュニティ交通を推進することにより、大きく社会が動き出すと考えています。

併せて、路線バスについても、高齢者の路線バス利用の簡素化を目的として、横浜市営バスで行っているような高齢者向け、年間定期券の発行についても、路線バス会社と連携し、検討していただきたいです。

また、自治会では、高齢者などを対象に、人とのつながりが持てるような事業や活動を行っていますが、支援する側の人手不足もあり、地域支援には限界があります。超高齢社会を迎えるにあたり、厚木市の中・長期的な今後の高齢者支援についての考えをお聞かせください。

■コミュニティ交通の導入については、地域の高齢化率や生活の形態、居住状況、スーパーや医療機関の施設等がありますので、地域のニーズを把握した上で、定時定路線型、デマンド型、タクシー運賃助成など、その地域の特性に合った運行システムを検討してまいります。

また、高齢者の路線バス利用の簡素化を目的とした高齢者向けの年間定期券については、かなちゃん手形の使用状況等を分析した上で、路線バス会社と相談し、高齢者の方々が一番利用しやすい移動について運行会社とともに研究してまいります。

今後の中・長期的な高齢者支援については、高齢者の皆様が自分らしい生活を地域で送っていただく上で、外出頻度が増加し、生活を豊かに感じていただけるよう、高齢者支援の拡充も考えながら、厚木に住みたい、住み続けたい、住んで良かったと思っていただけるような支援に取り組んでまいります。

様々な高齢者支援を行っておりますが、こうしたタウンミーティングを含めて多くの方々の声をいただきながら、高齢者の皆様の生きがいづくりの政策に取り組んでまいります。

(担当課:地域包括ケア推進課、福祉総合支援課、都市計画課)

意見2 自治会活動について

【高坪第二自治会】

■現在、自治会活動の軽減に向け、厚木市自治会連絡協議会理事会の提言を含め取組を進めていただいておりますが、市から依頼される業務と、自治会活動の範囲や具体的な内容が曖昧で決まっていないことがあり、多くの自治会役員が戸惑っています。

一例として、災害時における避難所以外の共助について、飲料水、食料、避難用具などの自治会が保有する備蓄品をどのように分配するのか、市、避難所運営委員会、自治会として各団体で何を優先すべきかなど、市が望む自治会としての活動が明確ではありません。

役割分担が示されていないことで、現職の自治会役員はもとより、これから自治会活動に携わってもらいたい人たちにとって、自治会活動は大変だという印象を与え、なり手不足に拍車をかけているように思います。

役割の明確化を進めることで、活動が軽減され、分かりやすくなることで適切な対応と二重作業の低減になると考えています。

最後に、自治会役員の負担軽減に御尽力いただいておりますが、市への提出書類や会議の電子化がいまだ進んでいません。書類記入の簡素化とともに、電子化やDX化等を是非早急に進めるようご検討ください。

■自治会の負担軽減については、市からの依頼事項等が多く負担になっているというお話を多くいただいております。現在、抜本的に見直しをさせていただき、皆様になるべく負担が掛からないように取り組んでいるところです。より一層皆様からお話をいただきながら、抜本的改革に向けて取り組んでまいります。

電子化においては、DX化を庁内で進めていますが、自治会活動においても電子化は大変重要であると認識しています。回覧板の電子化も地域からお声をいただいておりますので、取組を前に進めさせていただければと思います。

災害時等々、自治会でどのようにしたら良いか分からないというお話もありましたが、平時のときに防災訓練や避難経路の確認、防災用非常食の備蓄を行っていただきながら、災害発生時には応急対応や安否の確認をしていただくなど、防災力の向上に努めていただければと思います。災害が起こったときにどう対応できるのかについては、行政にも相談をいただきながら、明確化させていただければと思います。

また、3Dデジタルマップも活用していただき、災害に対する理解を深くしていただければと思っています。

(担当課:危機管理課、市民協働推進課)

意見3 自治会活動について	
【愛名第二自治会】 ■自治会役員の高齢化に伴い、魅力ある地域イベントに人が集ってくることが理想ですが、自治会の役員が高齢化になってくると、いろいろなイベントを立ち上げるのが難しくなってきます。 例えば、やぐらやテントを建てるとか、機材を出すというのは、自治会の役員だけでは非常に難しくなってきます。ある自治会では今年はやぐらを建てないで盆踊りをしたという話も出ていますので、お助け隊になるような人員の団体があると非常に助かります。自治会加入の増加にもつながっていくのではないのでしょうか。	■お助け隊については、一つの参考例として、市内でも自治会の傘下で青年会のような若い方々の組織を作り、協力をいただいているところもあります。全ての自治会に若い方々がいるわけではありませんが、そういった下部組織でお助け隊という役割を担っていただいているところもあります。 多くの方々の力、マンパワーがあって成り立つことであると思っていますので、今後、皆様のお話をいただき、自治会連絡協議会とも連携しながら検討いたします。 (担当課:市民協働推進課)
意見4 次世代が住み続けたいと思うまちについて(本厚木駅・愛甲石田駅へのアクセス)	
【中長谷自治会】 ■年配の方への補助なども必要だと思いますが、一番続ける必要があるのは、現役で働いている方が住み続けられ、ここに住み続けていこうと思えるかが、一番大事だと思います。厚木市は自然環境が良く、首都圏へのアクセスも非常に良いですが、本厚木駅、愛甲石田駅へのアクセス改善が必要です。 具体的には、バスの通行の流れを改善する通行規制、通勤、買い物客の流れをつくるための第2バスターミナル、愛甲石田駅にマイカー駐車場などを考えていただきたいです。第2バスターミナルについては、市役所の移転後の跡地にどうかという提案を前回させていただいたと思います。	■市民の皆様が厚木に誇りと愛着を持っていただき、それが若い世代の方々にも共有できたらと思い、施策を進めています。 生活面においてのバス路線は、長年課題であり、本厚木駅や愛甲石田駅のアクセスは長期的に考えなければなりません、本厚木駅北口の生まれ変わりは100年の計として進めているところです。北口においては、バス乗り場が分からないといったお話をいただくので、いかに分かりやすくするか、また、バス乗り場が分断されている状況がありますので、一つとした中で、皆様が通勤通学しやく、駅に通いやすい状況を皆様の御要望をいただきながら取り組んでいきます。 また、愛甲石田駅においても、マイカーの乗り入れ等いろいろ課題がありますので、愛甲石田駅周辺のまちづくり計画の策定をしているところです。愛甲石田駅をどう作っていくかは、地域の皆様の御意見等をいただきながら進めていく予定です。より一層、通勤通学がしやすく愛甲石田駅にも通いやすい、まちづくり基本構想をつくってまいります。 (担当課:都市計画課、市街地整備課)
意見5 次世代が住み続けたいと思うまちについて(北口再開発)	
【中長谷自治会】 ■北口再開発や市庁舎跡地について、「次世代が住み続けたいと思えるまち厚木市」という観点から、考えていただきたいです。	■本庁舎の跡地につきましては、厚木のにぎわいをどうつくっていくかという点において重要なポイントです。この本庁舎の跡地をどう活用していくかによって、本厚木駅の北口の生まれ変わりに大きく影響してくる部分もありますし、今、建設中の新庁舎、アミューの利活用等、点で考えるのではなく、中心市街地を面で考えることによって、新たな厚木のにぎわいが生まれてくると思っています。 現在、本庁舎跡地検討委員会をつくり、御意見をいただいているところです。より一層多くの方々の御意見を取り入れながら、素晴らしい施設として新しい価値を生み出す、創造する、そんな事業の方向性を考えていきます。 (担当課:行政経営課、市街地整備課)
意見6 次世代が住み続けたいと思うまちについて(保育の充実)	
【中長谷自治会】 ■保育環境の充実について、定住を促進するためには、働きやすい環境整備が必要だと思いますが、共働き家庭では、子どもを預ける保育園や児童クラブなど、子育て施設の充実が必要不可欠だと思っています。 そこで、子どもの受け入れ人数の拡大、必要な保育士等の確保を要望させていただくとともに、入園等に伴う手続の簡素化、費用補助等についても検討をお願いしたいです。	■入園手続の簡素化や費用補助等については、厚木市だけでは対応ができないことがありますので、国の動向も注視しながら研究してまいります。 保育士確保においては、給与面と処遇面が大きな課題ですので、厚木市でも考えなければいけない中、今年度からあつぎ手当の拡充を行いました。 厚木で保育士をやりたいという方が増えているお話も聞きますので、今後も保育士確保に取り組むことによって、地域の子どもたちが入園できるような環境ができるのではないかと考えています。保育士確保においてはもう少しで結果が出ると考えていますので、お待ちいただければと思います。 《実施日以降の対応状況等》 ■幼稚園教諭確保においては、新たな人材確保が課題となっていることから、今年度、幼稚園教諭等雇用サポート事業補助金を新設いたしました。 新たな人材の雇用に要する費用を学校法人等に補助することで、幼稚園教諭の確保、定着及び離職防止を図ってまいります。 (担当課:こども育成課、保育課)